

高校生の取り組みの様子

中津川プロジェクト1日目、第1部では、PAPER MOON(102分)を鑑賞したあと、各グループに「映画の中で写真は何度登場するか？それらによってわかることを書き出してみよう」「駅でのシーンではストーリーにかかわるもの以外にどのようなことが観客に示されているか」などの課題が課された。

3日目(最終日)第2部では、映画を振り返りながら、映画の構成や隠れたみどころを杉山先生が紹介。例えば、2項の対立がはっきり現れている駅でのシーンでは「ストーリーにかかわるもの以外にどのようなことが観客に示されているか」と問う。その後、「駅でいるアディ」と「その後ろにある大きな家で遊んでいる子どもが2人」が対立構造として表現されているなど見所を解説しながら、生徒の率直な意見を引き出した。生徒は自分の意見を言うことを通して、映画を「みる」ことから、映画を「よむ」おもしろさや映画が持つ奥深さを体感することができた。今回は映画を通して、目で見えるシーンや耳に聞こえる会話から、実際に映画にはあらわれないことを推測していく過程を学んだが、映画だけにとどまらず、実際の社会や研究の場においても、実際に見えたり、聞こえたりすること以外にも、その背景となる事象や研究をすすめるカギとなることを見つけだし、そこから自分で論を展開していくことの大切さを生徒は学ぶことができる奥深い講義であった。

(附属学校教諭 三小田博昭)

